

## 災害発生当時の避難誘導はいかに

山田町長／最終的には全町民を避難指示

**鈴木**

東日本大震災発生による災害対策本部の設置から町民への避難勧告発令まで、また第一原子力発電所の事故発生・放射性物質の飛散等による避難指示から自主避難発令まで、時系列に伺います。

上北迫、下北迫の一部並びに広洋台地区の住民に対し自主避難を呼びかけました。

午後5時39分には屋内退避が避難指示に変更になったことから、町民の安全を最優先に考え避難指示区域以外の全町民に対し自主避難を呼びかけました。

**町長**

大津波警報発令後、直ちに防災行政無線により防災広報を実施するとともに、午後2時55分に災害対策本部を設置し、職員を警戒に当たらせ、消防団においては、消防団長指揮の下、警戒並びに避難誘導に当たりました。

原子力災害に関しては、3月12日午前7時45分に第二原子力発電所から10km圏内にある

その後、第一原子力発電所1号機の水素爆発を受けて、翌日の13日午前11時に全町民に対し避難指示を発令しました。

その後の、第一原子力発電所1号機の水素爆発を受けて、翌日の13日午前11時に全町民に対し避難指示を発令しました。

## 広域圏組合・水道企業団の今後の運営は

山田町長／構成町村と協議し難局を乗り越える

**鈴木**

地域振興と民生・衛生・消費に関わる事業等、工業用水道および水道事業については、定住人口の減少や企業の撤退により収益悪化が危惧される中で、構成町として今後の運営に対する考えを伺います。

**町長**

現在は区域内の多くの住民や企業が避難している状況にありますが、今後、原発事故の収束により、故郷に戻り町を復興させるとい思いを持って頑張っている多くの双葉郡民がいます。

この現状を思えば、水道事業や環境衛生、消防事業等は必要不可欠な事業であり、他の構成町と十分協議し何とかこの難局を乗り越えるべき努力をしていきます。



鈴木 正範 議員

## 広野町及び双葉郡の今後について

山田町長／除染やインフラの整備に努める

**鈴木**

広野町は双葉郡の南の入り口として存在価値を高め、郡内住民の復帰・定着、新たな定住人口の増加、就労機会の拡大、風評被害の払拭、そして復旧・復興と今後の恒久的発展のため、東京電力(株)の本社機能を広野町へ移転要請すべきと思いますが、お考えを伺います。

**町長**

広野町および双葉地方の復興・復興にとりましても、大変すばらしいご提案かと存じますが、まずは、広野町が除染やインフラの整備に努め、町民の帰還や生活環境の充実に取り組みことが、双葉地方の復興・復興につながるものと考えており、ご提案につきましては今後の検討課題とさせていただきます。



▲避難所のような様子 (小野町体育館)



▲工事が完成した仮設の下水処理場